

やさしくわかる
介助者向けの
高次脳機能障害
～注意障害を中心に～

2022年2月2日

公益財団法人 日産厚生会玉川病院

リハビリテーション科 作業療法士

荻野泰史

本日の内容

- 高次脳機能障害とは
 - ✓ 定義
 - ✓ 認知症との違い
 - ✓ 代表的な症状
- 注意障害について
 - ✓ 注意の種類
 - ✓ 対応するにあたって
 - ✓ 具体的な対応の例
 - ✓ まとめ



高次脳機能障害とは

こういった症状がありませんか...？

普通にしていたことが出来なくなる

思ったように喋れない、言われたことが理解できない
すぐ忘れてしまう、気が散ってしまう、集中できない...

いろいろな情報の処理過程の障害

→『高次脳機能障害』

外見からは
分かりづらい障害

高次脳機能障害とは

<定義>

脳の器質的病変の原因となる事故の受傷や疾病の発症が確認されている

日常生活や社会生活に制約があり、その主たる原因が記憶障害、遂行機能障害などの認知障害である

検査によって脳の器質的病変が確認できる

高次脳機能

人として社会で生きていくために重要なはたらき

認知症との違い

認知症

→基本的には進行性に悪化し

従来の日常・社会生活が営めなくなった状態

例)アルツハイマー病、脳血管性、レビー小体型、前頭側頭型etc...

高次脳機能障害

→進行性ではない 新たな症状は加わらない

経過やリハビリで改善が見込まれる部分も多い

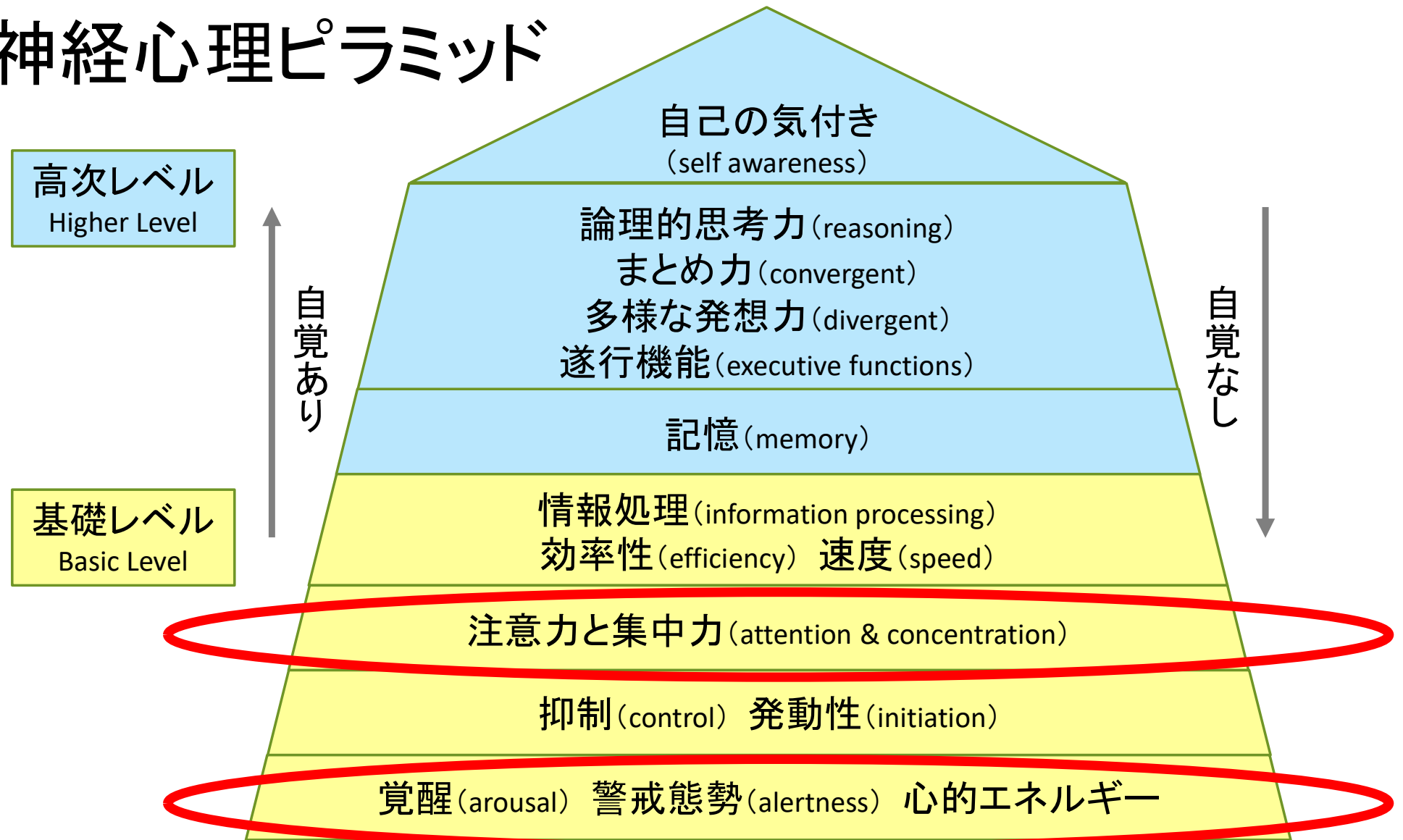
代表的な症状

- ◆失語症
- ◆失行
- ◆失認
- ◆遂行機能障害
- ◆記憶障害
- ◆行動と感情の障害
- ◆注意障害



注意障害

神経心理ピラミッド



高次脳機能のなかで
基礎を担っている

立神粧子, 総合リハビリテーション2006年5月号, 医学書院
より引用改変

注意障害の分類

①全般性注意障害

→単に注意障害というときはこちらをいう

遂行機能障害や失語症などに合併して存在する

今回はこちら

②方向性注意障害

→半側空間無視のこと

注意の種類



持続

選択

転換

配分

覚醒水準

まずは覚醒！

脳損傷により 易疲労(神経疲労)となっている
覚醒が低下していると、種々の注意機能も低下する

注意の種類

覚醒水準

刺激に反応するための準備・警戒状態

障害されると...

覚醒水準が保てていない

ぼーっとしていて、周りへの注意が不十分となる

対応は...

趣味や好みを取り入れる 適宜声掛けをする
運動を含めて耐久性を上げていく

注意の種類

持続的注意

ある一定時間、あるものに対し反応を続ける持続能力

障害されると...

注意を続けられず、ずっと同じ課題をこなせない
ミスが増える

対応は...

こまめに休憩を取れるようにスケジュールを組む
一つの行動を小分けにする

注意の種類

選択的注意

多くの刺激から重要なものを選び出すよう集中する力

障害されると...

いろいろなものに反応し注意が他にそれ
関係ないことに引き込まれる

対応は...

余計な刺激の無いように環境を調整する
(壁に向かって作業する TVを消す)

注意の種類



注意の種類

転換的注意 (転動性)

反応しているものから別のものに移り換えていく能力

障害されると...

何かをやっていると、他のことが出来ない
他のことをすると、元の作業に戻れない

対応は...

ひとつのことに集中するような設定にする
話しかけない 周囲に理解してもらう

注意の種類

配分的注意

複数の事柄などに同時に注意を配分する能力
(均等に、あるいは個別に重みづけして)

障害されると...

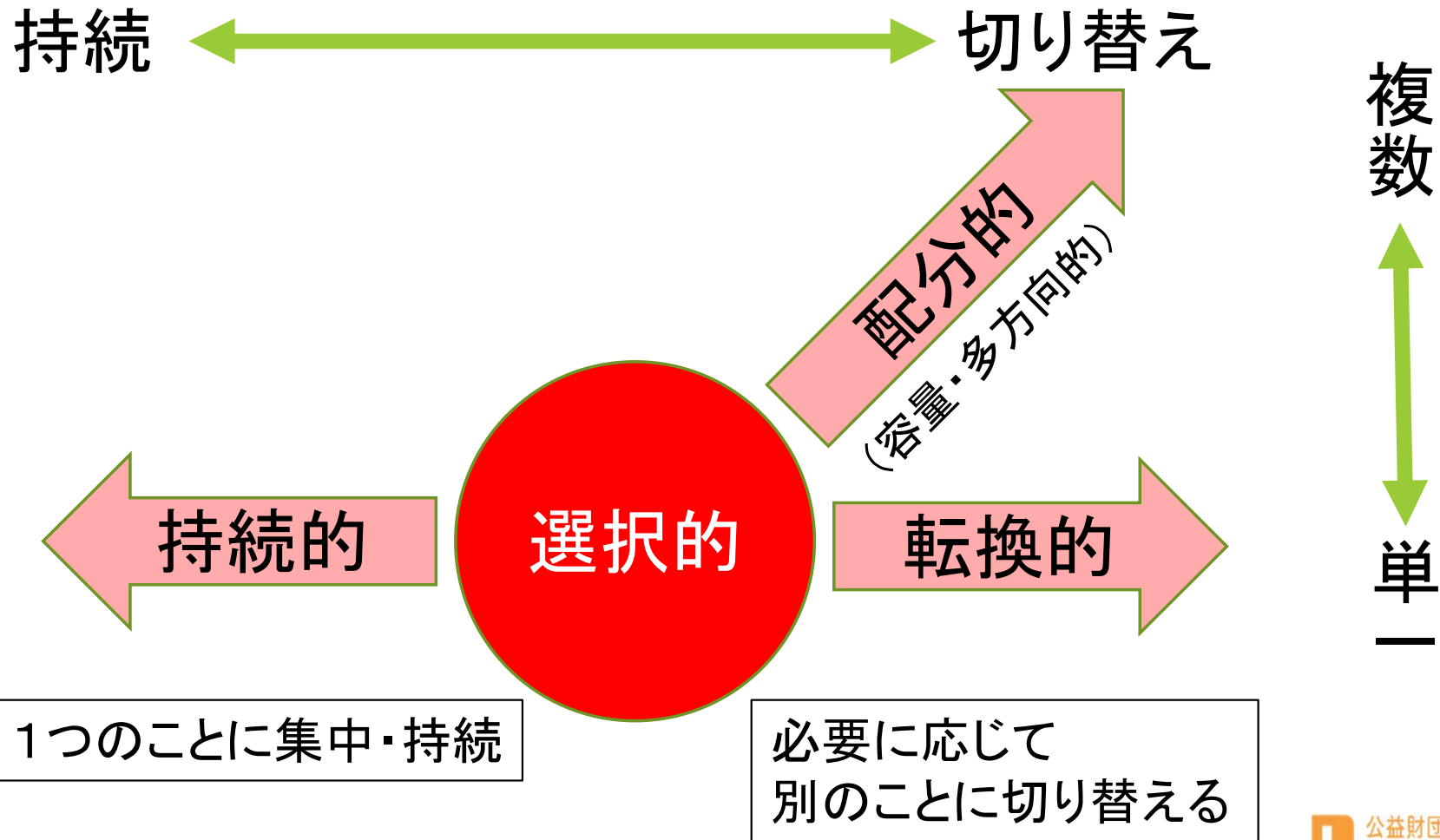
同時に2つのことを処理できない

対応は...

順序をつけてひとつずつ処理する
気付きのアイテムを導入(タイマーやメモ等)

注意の種類

複数のことに同時に気を配る
目的により注意の重みを変える



注意の種類

<注意障害に関わるその他の用語>

- 容量的注意
 - 配分して注意できる容量
 - 作業記憶(ワーキングメモリー)と関連が深い
- ペーシング障害
 - 動作が性急でせっかち、不用心で短絡的で危なっかしい状況
- 病識の低下
 - 症状を自分で認識できない

自覚を促すことも必要

注意の種類

<注意障害に関わるその他の用語>

- 覚醒低下
→ボーっとしていて反応が悪く寝てしまう
- 多弁
→話し出すと止まらない 躁状態のようになる
- 固執傾向
→気になったことが頭から離れない

※この3つが混在して見られることが多い

対応するにあたって

- どの部分がより強く損なわれているかを分析

“その人”に合った環境設定

- 本人のやる気、主体性を引き出す

...趣味など好みを取り入れる 訓練の意味を説明する

- 課題を遂行させるための援助

...具体的な声掛け 本人による声出しや指差し

- “出来ない”ではなく“どうやれば出来るか”

自己肯定感を持てるように

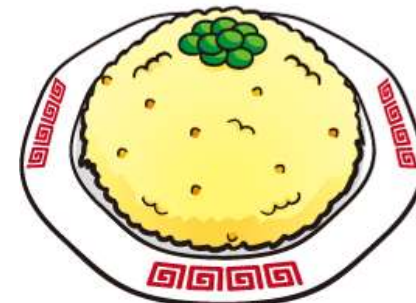
具体的な対応の例



- ぼーっとしていてやる気がない（覚醒水準の低下）
→やる気、意欲を引き出す
興味を持つもの、好きなものを導入
- 飽きっぽい 途中でやめてしまう（持続的注意）
→こまめに休憩出来るようなスケジュールを組む
まずは材料を切るところまで 10分したらひと休み
- 気が散って集中できない（選択的注意）
→刺激の調節
整理整頓 テレビを消す

チャーハン
食べたい

具体的な対応の例



- 何かやっているると他の事が出来ない（転換的注意）
→集中できるように 邪魔が入らないように
マナーモードや留守番電話の利用
- 並行作業ができない（配分的注意）
→順序を付けてひとつずつ行う
工程表を用いて予め確認しておく
火の使用はひとつずつ アラームの導入
- 自覚を促す →いっしょに振り返りをおこなう
- 自己肯定感 →ポジティブフィードバック

予定通り
できた！

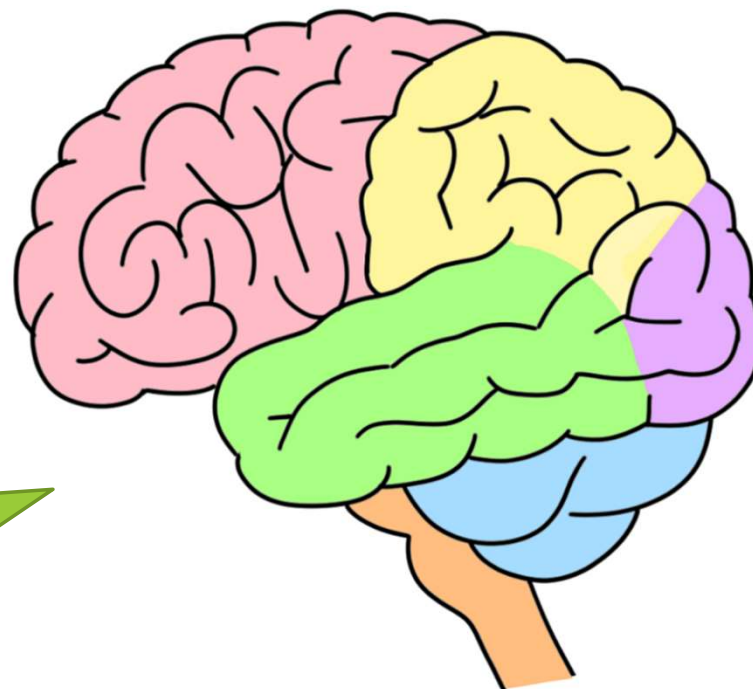
注意障害のまとめ

- 高次脳機能のなかで基礎を担っている
- 全般性注意には持続、選択、転換、配分がある
- まずは覚醒水準を保つことが必要
- 自覚を促すことも大切
- “その人”に合った環境設定を
- どうすれば出来るか 自己肯定感を持てるように

おしまい

明日から皆さんの支援に
役立てば幸いです

ご清聴ありがとうございました



参考資料



- リハビリスタッフ・支援者のための やさしくわかる高次脳機能障害
和田義明 著
- 50シーンイラストでわかる 高次脳機能障害「解体新書」
～こんなときどうしよう!? 家庭で、職場で、学校での“困った”を解決！～
名古屋市総合リハビリテーションセンター 編
- 障害福祉サービス等事業者向け 高次脳機能障害支援マニュアル
平成30-31年度 厚生労働科学研究